

「キャリア教育実践編 京都版(小中学校別)」ダイジェスト版について

京都府内の特色あるキャリア教育に取り組んでいる小中学校の実践例を、出前講座「キャリア教育実践編 京都版(小中学校別)」において紹介していますが、この度、各校の取組概要をわかりやすくまとめたダイジェスト版(A4、1枚)を作成しました。キャリア教育の推進に向けて御覧いただき、取組の詳細を希望される場合は出前講座を御活用ください。

なお、ダイジェスト版では、キャリア教育において育む基礎的・汎用的能力を次のように表記しています。

- ・人間関係形成・社会形成能力 → 人間関係
- ・自己理解・自己管理能力 → 自己理解
- ・課題対応能力 → 課題対応
- ・キャリアプランニング能力 → キャリア

また、表記の年度は、キャリア教育について、情報を提供していただいた年度を示しています。

各校とも、育む児童生徒像を明確にし、その達成に向けて指導方針を策定・共有し、各教科・科目及び特別活動、総合的な学習の時間、道徳、学校行事等のつながりを見える化した年間指導計画に基づいて、地域と連携したり、周辺環境を活用したりしながら系統的・組織的にキャリア教育を実施し、学びの多い実践となっています。

掲載校は次のとおりです。希望される学校をクリックしてください。

1 小学校の実践

- 向日市立第5向陽小学校 [ふるさと魅力化を通したキャリア教育]
- 相楽東部広域連合立和束小学校 [綿密な計画を柱としたキャリア教育]
- 亀岡市立西別院小学校 [起業を通したキャリア教育]
- 南丹市立美山小学校 [地域との協働によるキャリア教育]
- 京丹波町立丹波ひかり小学校 [夢に向かって一生懸命に学ぶ児童を育むキャリア教育]
- 綾部市立豊里小学校 [本校の課題解決の一助に向けたキャリア教育]
- 福知山市立夜久野小学校 [地域との協働によるキャリア教育]
- 舞鶴市立中舞鶴小学校 [学び手を育てるキャリア教育]
- 宮津市立栗田小学校 [地域食材を生かしたキャリア教育]
- 伊根町立伊根小学校 [非認知能力育成を通したキャリア教育]

2 中学校の実践

- 向日市立寺戸中学校 [大学連携から非認知能力を育むキャリア教育]
- 亀岡市立東輝中学校 [志を育むキャリア教育]
- 南丹市立八木中学校 [社会で生きる基礎を培うキャリア教育]
- 京丹波町立瑞穂中学校 [課題解決学習を軸にしたキャリア教育]
- 綾部市立東綾中学校 [授業改善につなげるキャリア教育]
- 福知山市立桃映中学校 [地域連携・学校の工夫によるキャリア教育]
- 舞鶴市立若浦中学校 [周辺環境を生かしたキャリア教育]
- 宮津市立栗田中学校 [ふるさと活性化を目指したキャリア教育]
- 京丹後市立大宮中学校 [人権教育を通したキャリア教育]
- 与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校 [環境から育むキャリア教育]

□ キーワード**地域** □ ふるさと魅力化を通じたキャリア教育

[令和3年度]

取組ポイント

市の魅力発信に向けて児童が主体的に調査し、交流を通して魅力を再発見し、文化資料館等を訪れたり、市の広報担当から現状を聞いたりすることでテーマを設定し、課題解決型学習に取り組む。「自分で始めた」という感覚が積極性を育み、京都市への歴史探訪や世界文化遺産登録をめざす試み等、児童が失敗を経ながらも、そこから新たな学びを得て、逞しい成長を遂げている。課題設定を修正しながら、主体的に調べ、考え、行動し、基礎的・汎用的能力を高めている。

学校名	向日市立第5 向陽小学校 〒617-0006 向日市上植野町五ノ坪1番地 ☎ 075-921-0001		
テーマ	伝えよう 向日市の魅力	対 象	6年生(全学年で地域を学ぶ「向日市ふるさと学習」)
育む力	小学校から系統的に社会との接点を保ちながら認知能力と非認知能力を一体的に育む。		
ねらい	課題解決型学習で提示された課題の解決策を考え、実行し、地域の役に立つということを実感する。		
重点項目	「まなぶ・調べる・交わる」→「考える・まとめる・深める」→「伝える・やってみる」		
配慮事項	課題設定を状況に応じて捉え直し、自分たちで学習を始めたという感覚を持たせる。		
取組概要	1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・市の魅力等についてiPadで調査、交流し、学習意欲が向上 ・魅力を再発見し、地域探究に対する意欲の高まり 	
	夏季休業	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内の歴史（地蔵、灯籠）を探索。 	
	2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・文化資料館、朝堂院・大極殿等の見学 	
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市のHPから魅力を探し、広報担当から市の現状等を聞く。 ・市の歴史・文化に関するテーマ設定により、グループ分け ・京都市歴史ウォッチングに取り組む際の視点を決め、向日市と京都市を比較する。 ・世界文化遺産登録への取組を通して、文化財と周辺事情（自然や人等）が一体となっていることの重要性を学ぶ。 		
	3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財と周辺事情のストーリー性を重視し、魅力のまとめ直し ・高校生対象の発表準備として、高校生からアドバイス（内容、発表の仕方等） ・新型コロナウイルス感染拡大により高校生対象の発表が中止、教職員対象に発表 ・発表を交流し、課題を見付ける（「協議・調査・発表」の繰り返し、内容の向上） ・府及び市の文化財関係者、市の広報担当等へ発表し、講評をもらう。 ・5学年対象に学んだことを発表する。（次年度への引き継ぎ） ・文化資料館への作品展示の計画 →自分たちのできることを自覚し、実践する。 	
取組成果	1 調べ学習編 【課題対応能力】	学校独自アンケート記述回答	
	魅力伝えるには、目に飛び込んでくるような迫力や建物の雰囲気や建物の雰囲気が大事だと思った。		
	2 協力編 【人間関係形成・社会形成能力】	友だちと協力する力、失敗してもフォローできる力、まとめる力が付いた。	
	3 発表編 【キャリアプランニング能力】	聞き手が興味を持てるような内容やパワーポイントを作ることができた。	
着眼点	① 課題設定は、学習を進めていく中で修正し、自分たちで始めたという感覚を持たせる。		
	② 外部連携と児童相互の交流、「内・外」の組み合わせで取組を深化させる。		



取組ポイント

キャリア教育の推進に向け、全校体制で取り組む組織が構築されており、担当毎に妥協のない取組が展開されている。身に付けさせたい力が低中学年別に明確に示されており、授業を含め各教育活動の基盤を成している。年間指導計画やキャリアロードマップ等、つながりや先を見据えた指導が、目標に向けて生きようとする児童の育成につながっている。

丁寧に作り込まれた指導計画と、その達成に向けた強固な指導体制が児童の成長を促している。

学校名	相楽東部広域連合立和東小学校 〒619-1201 相楽郡和東町園神定57 ☎ 0774-78-2072		
テーマ	人とつながり、目標に向けて挑戦し、自分を好きになる児童の育成	対 象	全学年
組 織	校長/教頭→研究推進委員会→授業づくり部/カリキュラムづくり部/デジタル部→全体会		
目指す児童像	<ul style="list-style-type: none"> ・自分発見力(深い学び) → 自分を見つめ、ありのままの自分を認める子 ・チャレンジ力(主体的な学び) → 自分で考え、主体的に自己決定し、挑戦できる子 ・つながり力(対話的な学び) → 自分の思いを伝えるコミュニケーション能力を身に付け 		
身に付けさせたい力	「つながり力」の一例	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年：自分の思いを言葉で伝えようといふことができる。 ・中学年：相手を見て場面にあった話し方で話することができる。 ・高学年：自分の思いを相手に伝えようといふ工夫することができる。 	
	系統性・具体性・客観性		
学校教育を支える視点	<ul style="list-style-type: none"> ・教師「させたい」 → 児童を中心においた学級経営、教材研究を土台にした授業作り ・児童「したい」 → 見通しが持てる学習、安心安全で前向きになれる居場所 ・学校風土「和東小といえは…」 → 教師も児童も大きな枠組みの中で自分の色が出せる。 		
単元の流れ	<ol style="list-style-type: none"> ① 単元でのゴール 単元で身に付けさせる力を明確にする。(単元構想シート) ② 単元の見通し 児童に単元を貫く「めあて」を提示する。 ③ 授業 キャリアの視点を通して見た授業での姿をイメージして準備を進める。 ④ 振り返り 児童による自己評価(単元構想シート) 		
年間指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・1回だけの行事で、直ぐに力が身に付くわけではない。 ・その学習の前に何を学び、今後どのようにつなげていくか。 		
キャリアロードマップ			
取組概要	<p>(1) 目的 年間を通して、「今の自分」や「なりたい自分」と「行事・学習」とのつながりを意識させることで、行動変容を促す。</p> <p>(2) 留意点 一人一人に配布し、年間の見通しを持たせ、年間の活動を確認する。</p>		
キャリアキャリ(キャリア・パスポート)	<p>(1) 目的 ・「今の自分」を見つめ、「なりたい自分」を想像し、その姿に近づく。 ・学年(校種)をまたいだ振り返りと目標を可視化する。</p> <p>(2) 留意点 ・毎月、振り返り、目標の再設定するため、日々、目に触れさせる。 ・教師は対話的に関わり、キャリア形成を支援する。</p>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「いきかた」アンケートとして、「今」の自分を見つめる(年2回実施)。 ・3つの「身に付けさせたい力」を問いに変え、4段階で自己評価を行う。 		
着眼点	<ol style="list-style-type: none"> ① 全校体制による組織と系統的な計画が、各教育活動におけるキャリア教育を充実させる。 ② 年間指導計画やロードマップ、単元構想シート等、目標の明確化が学びの効果を高める。 		

□ キーワード**起業** □ 起業を通じたキャリア教育

[令和4年度]

取組ポイント

Youth Enterpriseへの参加を機に地域の魅力を発信し過疎化を防ぎ西別院の良さを知ってもらい、自分達になり地域に貢献する活動を取り組み、「西志」こと、「NISSI」として会社を起業し全児童が経営の役職を担い協力や挑戦することの大切さを学んでいる。地元の可能性について考え、強みを活かした製品や環境に優しい商品を考案し、地域人材の支援も受けながら製品化し、販売量・収益計算・広報等販売に求められる業務をすべてやり遂げている。収益は赤十字募金と活動費として取組の充実に充てる。

学校名	亀岡市立西別院小学校 〒621-0124 亀岡市西別院町柚原佃24 ☎ 0771-27-2201		
テーマ	Nissiカンパニーの活動を通じて町の魅力を発信しよう！	対 象	全学年
時 間	教科横断的な学び[総合的な学習の時間、課外活動、生活科、社会科、国語科] 計60時間		
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ、協調性、コミュニケーション能力、情報収集・分析能力等を向上させる。 ・地元の可能性や資源について理解を深め、改善に向けた具体的方法や仕事等について考え、実践を通じて、どのような職業に就いても必要とされる起業家的行動能力を培う。 ・地域の人と共に地域を担う次世代リーダーの育成を実現する教育の仕組みをつくる。 		
取 組 概 要	<p>取組の特色として、①地元の農業経営者や竹炭窯主宰者、地域学校協働活動推進コーディネーター等の支援を受ける。②会社として役職・部署を設ける。③収益は赤十字社へ寄付（壱万円）と起業に関わる活動費に充当。④広報担当児童が随時、活動をHPにアップする。⑤亀岡市の環境・エコ社会的取組や地域の魅力を伝える情報発信や交流をする。</p> <p>3月 ㊦次期社長他各役職内定（4月就任と経営方針等所信表明等）</p> <p>4月 ㊦農耕生産体験活動スタート（田畑）及び活動計画作成</p> <p>5月 ㊦竹炭づくり体験活動と商品開発へ向けて</p> <p>7月 ㊦地域行事に参加・情報発信等広報</p> <p>8月 ㊦商品アイデアを各自で構想を練る（地元の魅力・環境）。</p> <p>9月 ㊦サンプルの作製・工夫する点や商品作製などの分担学年について話し合いや確認</p> <p>10月 ㊦市場調査等による価格設定、販売量・収益計算、広報・販売に関する注意事項の確認 商品名・キャッチコピー・包装方法・ポップ作成・収穫や商品管理・情報発信 販売活動スタート、授業参観、農作物植栽・管理、商品追加製作等</p> <p>11月 ㊦西別院フェスティバル・ガレリアかめおか・犬甘野営農組合・京大トレードフェアでの販売（対象：保護者・地域住民・市民・特認校説明会参加者・大学生・審査員他） 販売活動による金銭授受や会計・管理、在庫確認と商品追加作業、セールストックやレイアウトの工夫、販売価格の設定、閉店間近の特売セールスの工夫・（収穫感謝祭）等 京大トレードフェアでの交流活動や実践報告・情報発信（プレゼンコンクール）参加</p> <p>12月 ㊦振り返りや交流、まとめ、他県小学校への情報発信・交流スタート（3学期へ）</p> <p>3月 ㊦日本赤十字社へ募金訪問・新聞取材等</p>		
成 果	学校独自アンケートにおいて、「将来の職業を考える上で役立った」「他の人と協力して働く力が育った」「発表や説明する力が育った」「新しいことに挑戦する気持ちが育った」「仕事を通じて社会に貢献する力を付けるのに役立った」の各項目が高い割合となっている。		
着眼点	<p>① 年間指導計画の作成と共有、教科横断的構造化が、各取組を充実と成功に導く。</p> <p>② 一人一人が役割を担うと、果たすべき責任が児童を成長させる。</p>		



□ キーワード**周辺環境・地域** □**地域との協働によるキャリア教育** [令和3年度]

取組ポイント

芦生原生林等自然林が多く残されているとともに、美山かやぶきの里にはかやぶき民家が保存されており、この特色ある環境を活かした取組が、美山学として地域人材と連携・協働しながら組織的・横断的に展開されている。地域学校協働活動推進員が各学年の発達段階に応じた活動の組み立て・調整に参画するなど、各取組の充実を多面的に支援している。

地域の温かい支援の下、恵まれた環境を活かした取組が自己（地域）肯定感を育んでいる。

学校名	南丹市立美山小学校 〒601-0751 南丹市美山町島 島台52番地 ☎ 0771-75-0017	
テーマ	自ら考え、伝え合い、学ぶ喜びを実感する児童の育成 ～美山学の実践を通して～	
背景	小学校再編により拡大した校区と教育資源を活用し、学校・地域が連携・協働する。	
取組概要	<p>地域との連携・協働による教育活動を「美山学」とし、学ぶ喜びや充実感を味わい、豊かな人間性や社会性を培うことを目指して、地域の教育資源「人・物・自然・文化」を教材に取り入れたり、地域に働きかけたりして教科横断的に取り組まれている。</p> <p>地域学校協働活動推進員が計画の打ち合わせや日程調整、授業の様子の記録、便りの発行等を行い、多面的に学習活動を支援している。</p> <p>1年生 【あきとなかよし】生活科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭等での活動を通して季節の変化に気付く。木の葉等で生活に役立つものを作る。 ・地域住民から遊びを学び、作ったもので遊ぶ。グループ毎に内容を考え、発表する。 <p>2年生 【大きくそだて わたしの野さい】生活科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育て方を調べたり、人に聞いたりしながら野菜を栽培し、生命や成長に気付く。 ・近隣高校が土作り等を収録した動画から栽培方法を学ぶ。活動を動画収録して送付し、栽培に係るアドバイスを受ける。調理に関する動画も視聴し、味わう喜びを感じ取る。 <p>3年生 【美山のお宝 ～かやぶき～】総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茅葺き職人から喜び・苦勞を学び、茅葺き体験を通して役割・協力の大切さを知る。 <p>4年生 【芦生グリーンワールド】総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦生もりびと協会等と連携し、原生林保全に向けた取組を理解する。 ・多様な動植物が地域の環境と関わっていること等、自然環境の在り方について考える。 <p>5年生 【地元ホームステイ】総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5地域12家庭において民泊体験をする。家族と違う人との生活に新しい気付きを得る。 <p>6年生 【古の美山に学ぶ ～鯖街道～】総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚の歴史的な位置づけと鯖街道との関係に仮説を立て、関係者の講話等により検証する。 ・調査内容等を発信するために、南丹市情報センターの支援の下、映像制作に取り組む。 	
成果	<p>令和3年度全国学力・学習状況調査において、「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の各項目が全国（公立）平均を上回る割合となっている。</p>	
着眼点	<p>① 効果的なポンチ絵により取組全体像を把握し、共有する。</p> <p>② 見慣れた生活空間の中に、「なぜ」が埋もれている。</p>	

□ キーワード**主体性** □ 自ら判断・決定を軸としたキャリア教育 [令和3年度]

取組ポイント

児童が自ら選択・決定することを基本方針とし、お話タイム・リラックスタイム・探究タイム等多様な取組が展開されている。学校の周辺環境を生かし、隣接する山林を、児童が自由な発想で整備し、学校林を新設する活動が教科横断的に進められ、アイデアがカタチになることで達成感を得ている。地域住民からなる有志に温かく包み込まれ、豊かな学びを積み上げている。

「自分で決める」という指導方針の下、自分で考え、判断し、行動する力を向上させている。

学校名	京丹波町立丹波ひかり小学校 〒622-0232 京丹波町曾根宮ノ浦戸麦54 ☎ 0771-89-2353	
テーマ	夢に向かって一生けんめい学ぶ子どもの育成	
目指す児童像	①自分で考えて判断し行動する。	②新しい価値を創り出す。
取組概要	1 学校林 4年生対象	③仲間と共に力を合わせる。
	<p>(1) 目的</p> <p>ア 夢中になる喜び 自分の願いや思いを生かして、主体的に活動する。</p> <p>イ 友だちと遊ぶ楽しさ 自分と違う発想や物の見方、考え方にふれる。</p> <p>ウ 自然とふれあう喜び 自然を感じ、自然・環境に働きかける。</p> <p>(2) 森林環境教育 林野庁等推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京丹波町から初のモデル校として指定を受け、森林資源や環境保全について学ぶ。 ・森林と暮らしの関係を認識し、持続可能な社会の在り方を模索する力を育む。 <p>(3) 取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に隣接する山林を整備して学校林を新設する。 ・京丹波森林組合の職員から森林に関係する学習項目について継続的に学ぶ。 <p>(4) 教科横断的な学び</p> <p>社会科：自然災害等、理科：森林環境・生物多様性、生活科：森林・環境に係る内容</p> <p>2 児童が選択・決定する取組</p> <p>(1) お話タイム [月火木の1限目] 自分の暮らしを語ったり、人の話を聞いたりする。</p> <p>(2) リラックスタイム [毎日10分] 午後に向けて気持ちを整える方法を決め、実行する。</p> <p>(3) 探究タイム [毎週月20分] 学級毎に問いを設定し、解決に向けて取り組む。</p> <p>3 人との出会い 「みのり会」</p> <p>(1) 目的 学校と地域住民が信頼関係を深め、年間を通して児童の学びを支援する。</p> <p>(2) 組織 地域住民の有志からなる支援組織（学習支援・読書支援・食育・栽培環境）</p> <p>(3) 特色 教育課程を踏まえた学習・体験活動の支援、学期毎の広報誌発行・全戸配布</p> <p>(4) 成果 学習意欲の向上、授業の活性化、地域肯定感、挑戦する心、協力の大切さ</p> <p>4 防災教育 関西大学社会安全学部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害や防災等について様々な角度から学ぶ。 ・防災に関する情報・アイデア等を、通信を通して保護者と共有する。 <p>5 未来に生きるぼく・わたし</p> <p>職業講話を通してやりがい等について学び、将来について考える。</p>	
着眼点	<p>① 創造性・独創性を育む教材として、周辺環境を積極的に活用する。</p> <p>② 多彩な着想・発想がキャリア教育の可能性を広げる。</p>	



取組ポイント

地域・家庭・学校のネットワーク強化を目指し、地域と連携・協働した多彩な取組が展開されている。失敗から学ぶことが、社会で通用する力、という指導方針から学校主導とせず、児童の自由な発想と主体性を重視し、準備や材料調達、事業所への依頼、豊里ふるさとフェスの台本作成・司会進行等すべてを児童が担当し、課題を一つ一つ克服しながらやり遂げている。

探究に協力して取り組み、つまづく度に話し合い、考えればできるという達成感を得ている。

学校名	綾部市立豊里小学校 〒623-0222 綾部市栗町花貝2 ☎ 0773-47-0013		
テーマ	近い将来の地域・学校協働の組織化を目指して	対象	5年生
時間	総合的な学習の時間 豊里から学ぶ「豊里学」		
全体計画	<ul style="list-style-type: none"> ・豊里ブロック（幼稚園・小学校・中学校）が連携した「キャリア教育全体計画」の作成 ・基礎的・汎用的能力別、幼・小[低中高]・中別に身に付けたい力及びキーワードの策定 		
目的	地域と連携・協働し、地域を教材化することで、本物から探究的に学ぶ力を育むとともに、地域・家庭・学校のネットワークを強化し、地域への思いを共有する。		
配慮事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校主導ではなく児童が考えて動くことで、現実社会を知る力を育む。 2 本物から学ぶ（地域が先生、地域の教材化）。 3 協働性について学ぶ機会を設ける（KJ法に準じた手法の活用、班員の入替）。 効果 <ul style="list-style-type: none"> ・意見を出し合い、分類することで、自分たちで組み立て、仕上げる意識が育つ。 ・発言力の強い児童だけの意見にならないように環境を整える。 4 ペア相談体制（担任と担任外の教師がペアを組み、相談し、取組の方向性を決定） 		
取組概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域教材の新たな開拓【課題対応、人間関係、自己理解、キャリア】 地域の里山や寺等6カ所を見学し、歴史的背景等について学び、発表に向けてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・事前取組→知っていること・調べたいことの確認を行う。 ・事後取組→わかったことを結び、つなげて、教室の黒板に板書し、見える化を図る。 2 「豊里ふるさとフェス」の企画・運営【課題対応、人間関係、自己理解】 児童が地域・家庭・学校のネットワーク強化に向けて、準備から本番まで担当する。 <ul style="list-style-type: none"> ・10月 担当活動班として、歌、太鼓、円山みこし等についてグループ毎の練習 ・11月 発表準備班として、見学からの学びをKP法で伝えるための話し合い、練習 ・12月 本番 <ul style="list-style-type: none"> ◇児童が司会進行の台本作成・司会担当、会場準備、リハーサル ◇「はじめの会」（太鼓・円山みこし）、グループ発表、豊里ビンゴ等 ◇予想を上回る参加となり、「考えればできる」という達成感を得る。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・本物から学ぶことを通して、より高い専門性、実用感のある学びとなっている。 ・地域を学習の場とすることで、児童の学ぶ力を効果的に活用・発揮することができる。 ・郷土愛を育むと、自分を肯定することにつながる。 		
着眼点	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎的・汎用的能力を学校独自に、発達段階別に策定する。 ② 2つの視点「児童」「地域」からキャリア教育を組み立てる。 ③ 地域を教材化し、地域から学ぶと、生活が学びの対象となる。 ④ 「なぜやるのか」という取組目的を考えると、主体性が増す。 		



取組ポイント

学園の取組を支援する地域の有志「結クラブ」と連携し、年間を通して発達段階に応じた多彩な取組が展開されるなか、学校外の様々な人と接することで視野を広げるとともに、コミュニケーション能力を始めとした基礎的・汎用的能力をバランスよく向上させている。地域人材と連携した取組を通して見守られているという感覚を育み、地域に対する理解と愛着を深めている。

学校・地域の固い絆が児童を温かく包み込み、発達段階毎に心豊かな成長を遂げている。

学校名	福知山市立夜久野学園 〒629-1313 福知山市夜久野町高内26番地 ☎ 0773-37-0047		
テーマ	地域協働によるキャリア教育	対 象	全学年
時 間	総合的な学習の時間、生活科		
目 的	少人数の限られた人間関係のなかで9年間過ごすため、新しい環境において力を発揮することができる逞しさを育む。		
配 慮 事 項	地域からの要望が多いなか、地域・学園双方にとって「Win・Winの関係」となるよう教育課程の面から配慮を行う。		
取 組 概 要	<p>地域の有志（PTAは全員）から成る「結クラブ」は、年間を通して、児童生徒の学習やふれあい活動、環境整備等、ボランティアとして学園を支援する組織で、3小学校が統合した際に発足し、8年目を迎える。</p> <p>4月 ♪ふるさとたっぷりどっぴりツアー（全学年）【地域の探索】 【人間関係、自己理解】</p> <p>5月 ♪福知山踊り（1・2年） ♪輪投げ交流会（5年）【人間関係、自己理解、課題対応】</p> <p>6月 ♪サツマイモの苗さし（1・2年） ♪そば学習（3年） 【人間関係、自己理解、課題対応、キャリア】</p> <p>7月 ♪特別養護老人ホーム訪問（3年） 【人間関係、自己理解、課題対応】</p> <p>♪そばの種まき体験（3年） ♪丹波漆に関する活動（漆かきの話、漆の絵付け体験、漆を掻く作業）（4年） 【人間関係、自己理解、課題対応、キャリア】</p> <p>10月 ♪大根の種まき、玉ねぎの苗植え、サツマイモの収穫（1・2年） ♪そばの収穫、そば打ち体験（3年） ♪地域で働く人からの学び（ぶどう園、ジビエ料理）（6年） 【人間関係、自己理解、課題対応、キャリア】</p> <p>♪文化祭において地元のオカリナグループと合同演奏及び合唱（3年）</p> <p>♪「だし」作り（4年） 【人間関係、自己理解、課題対応】</p> <p>1月 ♪昔の遊びに関する学び（めんこ、あやとり、紙てっぽう、けん玉等）（1・2年） 【人間関係、自己理解、課題対応】</p>		
成 果	学校独自の「児童生徒アンケート」において、「地域の学習に楽しく、積極的に取り組んでいる（人間関係形成・社会形成能力）」「将来の夢や目標がある（キャリアプランニング能力）」「自分にはいいところがあると思う（自己理解・自己管理能力）」「ものごとを最後までやり遂げて嬉しかった経験がある（課題対応能力）」の各項目で高い割合となっている。		
着眼点	<p>① 地域の特色である有志による組織と連携し、多彩な取組を展開する。</p> <p>② 発達段階に応じた年間指導計画が学習効果（効率）を高める。</p> <p>③ 基礎的・汎用的能力4領域を定量的に評価し、目標達成度を客観的に測る。</p>		



取組ポイント

近隣の公園が荒れていることを課題に設定し、公園の美化及び有効活用に向けて、児童が次々に見えてくる課題に学級全体で取り組み、話し合いを通して自分たちで対応策をまとめ、課題を一つ一つ解決している。児童では手に負えない課題に対しては地域や行政に協力を要請するなか社会とつながる力やコミュニケーション能力を向上させている。

「地域のためにやってみたい」を叶えるために主体的に考え行動し、高い達成感を得ている。

学校名	舞鶴市立中舞鶴小学校 〒625-3656 舞鶴市字余部上120番地 ☎ 0773-62-3656		
テーマ	藤の森を復活させよう	対 象	5年生
時 間	総合的な学習の時間における確認事項 ②児童と共に計画を立てる。 ①何を教えるかではなく、どんな力を付けたいか。③学校の外とのつながりを重視する。		
目 的	学校の「育てたい児童像」と「身に付けさせたい力」を明確にし、校内で共有し、その達成に向けた教育の一環としてキャリア教育に取り組む。		
配 慮 事 項	1 児童の「やってみたい」という気持ちを重視し、自分たちで考え、取り組ませる。 2 解決すべき「課題」の解決に向けて、まず「小課題」を設定し、その「小課題」の解決に努めて結果を出すなか、最終的に「課題」の解決につなげる。 3 1つの課題が解決すると次の課題を考える「課題発見→設定→探究→解決→表現→新たな課題」という取組サイクルの各過程の中心に、児童を位置づける。 4 対応できないことは地域・行政の支援を求め、協働するなか社会とつながる力を育む。 5 カリキュラム・マネジメントにより、他教科（国語科・社会科・算数科・図画工作科）の特性を活かしたキャリア教育を、それぞれの授業で実践し、取組をさらに深化させる。		
取 組 概 要	4月 課題設定に向けて、「やってみたいこと」の整理（KJ法） 5月 中舞鶴探検隊と町探検し、課題を探す。結果を整理し、話し合い、課題の設定 6月 市役所と連携し、公園の清掃活動。処理できない廃棄物・漂着ゴミ・朽ちた小屋等について地域に協力を依頼し、自治会と連携し（重機提供）、撤去・引き揚げ等の実施 7月 清掃後の活用を検討し、地域が楽しむ祭りを企画。自治会へ説明・要望の聞き取り 8月 広報活動として、中舞鶴総合会館における企画や地域の地蔵盆において取組の説明 9月 祭りを具体化し、計画・準備（花壇づくり・流しそうめん・風景の写生大会等） 10月 市長を含め多くの参加者を迎えるなか、児童の主導による祭りの開催 11月 振り返りの一環として、次できることについて検討		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・育てたい児童像及び身に付けたい力が達成できている。 ・全国学力・学習状況調査において、各教科とも顕著な伸びがみられる。 ・学校独自の「子どもアンケート」において、「人の役に立つ人になる」「将来の夢がある」等の項目で高い割合となっている。 		
着眼点	<p>① 総合的な学習の時間の運用について共通認識を図るとともに、「育てたい児童像」を明確化し、共有する。</p> <p>② 探究的な学びを通して、より工夫して解決しようとする態度が育つ。</p> <p>③ 社会とつながる場面は児童を本気にさせ、学習がさらに深まる。</p>		



□ キーワード**地域** □ **地域食材を生かしたキャリア教育**

[令和2年度]

取組ポイント

地域の特産物や産業の調査を通して、地元の魅力を再発見し、ふるさとの活性化に向けて、近隣高校や市役所・事業所・専門学校等と連携し、地元で漁獲される魚を生かした新製品の開発に児童主体で取り組んでいる。連携先からの指導を学びとして蓄積し、取組毎にアイデアを深化させ、柔軟な発想で課題を解決し、製品化に成功を収め、地域の事業所において販売された。

地域活性化に向けてオリジナル商品の開発に主体的に取り組み、考える喜びを体感している。

学校名	宮津市立栗田小学校 〒626-0074 宮津市上司640-1 ☎ 0772-25-0010		
テーマ	由良・栗田の美味しいものをみつけよう	時間	総合的な学習の時間
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・特産物等の調査を通してふるさとに誇りを持ち、守り、発展させようとする心情を育む。 ・自ら課題を見つけ、追究しようとする態度や問題解決の技能を育む。 		
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・先回りして成功させず、あえて失敗体験をさせる。 ・児童に決めさせ、決めたことは自分でやるように促す。 	対象	5年生
取組概要	<p>9月中旬 ・海の学校ワークショップへ参加（市役所商工観光課、近隣高校との連携） 地域のよさや海の魅力のつまった特産品づくりの動機づけ、商品アイデア作成</p> <p>・近隣高校→講話「つくり育てる漁業」、食品加工体験、高校生へインタビュー</p> <p>10～12月 ・海の学校ワークショップまでのまとめ・発表（発表形式を児童が選択） ・事業所への製品案のプレゼンテーション準備（材料・作り方）[インターネット]</p> <p>12～1月 ・学校法人 大和学園へのプレゼンテーション作成</p> <p>学び { ・ アイデアの製品化に向けた具体的なイメージ ・ グループ毎に検討し、役割に対する責任を意識</p> <p>1月中旬 ・学校法人 大和学園にリモートによるプレゼンテーション →考えた商品案の説明、プロの視点からアドバイス</p> <p>学び { ・ プレゼンテーションの難しさを体感、次につながる学び ・ 発表におけるマナーに関する学び（作法・話し方・言葉遣い等）</p> <p>2月上旬 ・学校法人 大和学園と試作品についてのリモート学習</p> <p>学び { ・ 製品への拘りが評価を受け、達成感 ・ 製品化に向けた改善点の指摘・確認</p> <p>・事業所へのプレゼンテーション作成 ・市役所が地元の2地元事業所と交渉 →「焼き鯖寿司オリーブオイルがけ」「アジ刺身漬け」への協力・助言を依頼</p> <p>学び { ・ 煮沸消毒により製品化が困難、助言を参考に別の可能性を再検討 ・ プロの世界の厳しさを感じ、製品化に向けた意欲のさらなる向上</p> <p>2月中旬 ・プレゼンテーションを実施する事業所の決定</p> <p>3月上旬 ・事業所へのプレゼンテーション 3月中旬 ・事業所において製品販売（見学）</p>		
成果	自分たちで一から生み出す喜びや協力してつくりあげる難しさを感じ取ることができた。		
着眼点	<p>① 地域の固有の財産やプロの高い専門性が児童のモチベーションを上げる。</p> <p>② 児童に「どこまで求めるか」や「どんな力を身に付けさせるか」を明確にする。</p>		



□ キーワード**非認知能力** □ 非認知能力の育成を目指したキャリア教育 [令和2年度]

取組ポイント

主体的に考える児童の育成を目指し、すべての教育活動を通して非認知能力の向上に取り組んでいる。どの教育活動で、どのような行動を身に付けるかについて共有し、環境を最大限に生かした取組が展開されている。学習指導における非認知能力に関わるめあての設定、ピクトグラムの活用、指導案に非認知能力の記載等特色ある指導が非認知能力の向上につながっている。

目標達成に向けて十分に練られた指導計画と丁寧な指導が児童の確かな成長を促している。

学校名	伊根町立伊根小学校 〒626-0423 与謝郡伊根町字平田462-2 ☎ 0772-32-0019		
テーマ	自分の考えをもち、共に学び合える児童の育成 ～非認知能力を育て、働かせる授業を～		
時間	総合的な学習の時間、特別活動、道徳科、各授業	対象	全学年
目的	少人数の環境で過ごし、周囲への依存心が強いため、主体的に学習に向かう態度を育む。		
行動指 標	テーマ→目指す児童像→5つの育てたい非認知能力（意欲及び振り返り、挑戦、粘り強さ、受容、利他）→目指す非認知能力の行動指標[学年毎]（目指す具体的行動）→育てたい非認知能力を育成するための教育活動[学年毎]（重点的に指導する教育活動）		
1 学級通信	学校での児童の姿を非認知能力の視点で見取り、様子を学級通信に記載する。児童に非認知能力を意識させ、保護者に非認知能力に対する理解を促す。		
2 キャリア・パスポート	全校の取組について、事前にめあて、事後に振り返りを書き、担任がコメントして返却する。児童の自信や自尊感情を育む。		
3 特別活動	(1) 児童会種目→「いねっこジャンプリレー大会」に取り組む。異年齢で関わり、思いやる心・主体性・粘り強さを育む。		
配 慮 事 項	(2) 全校遊び→次期リーダー育成に向けて6年生以外が企画・運営する。自己コントロールや協力する力を育む。		
	(3) 異年齢掃除→縦割り掃除班により高学年のリーダー性を育み、異年齢間で教え合い、協力し合う心を育む。		
	(4) 道徳科と特別活動のリンク→道徳科の学習内容と特別活動の行事の関係を明確にする年間計画を作成し、関連を意識して指導する。		
取 組 概 要	1 めあての設定→教科に関わるめあての他に、非認知能力に関するめあてを立てる。 成果 非認知能力に関するめあてを持つことで、何を頑張るのか意識して取り組む。		
 やるやん	2 ピクトグラム→働かせたい非認知能力をピクトグラム化し、授業のめあてに入れて示す。 (やるやん[学習意欲]、ねばやん[粘り強さ]、にこやん[協力]、きくやん[聞く力]、はなすやん[話す力]) 成果 わかりやすく、非認知能力を維持して学習に取り組むことができる。		
	3 振り返りコメント→授業の最後にめあてについて振り返り、コメントを入れて返却する。 成果 学習意欲が次の授業に継続し、課題解決に協力したり、粘り強さを見せる。		
	4 学習指導→指導案に単元（本時）の目標と共に「非認知能力に関わる指導」を記載する。 成果 どの場面で、どの非認知能力を働かせるのかに関する指導が明確になる。		
着眼点	① 非認知能力を育成する教育活動の明示が、ぶれない指導を可能にする。 ② 年間カリキュラムに横断的指導における教科間の関連を明記する。		

□ キーワード**主体性** □ 大学連携から非認知能力を育むキャリア教育 [令和4年度]

取組ポイント

大学から提示された課題に対して、学校は助言・支援を行わないという指導方針の下、生徒が自由に研究テーマを設定し、主体的に調査し、グループ内で考えを交流するなか、研究を深化させている。解が1つとは限らない課題に諦めることなく支え合って研究に打ち込むことで、忍耐力や意欲、コミュニケーション能力等、非認知能力を向上させている。

学校の方針が生徒を自立に導き、その変容が学習に加え学校生活に積極性をもたらしている。

学校名	向日市立寺戸中学校 〒617-0002 向日市寺戸町蔵ノ町1番地 ☎ 075-934-5311		
時間	総合的な学習の時間、理科	連携大学	国立大学法人京都大学iPS細胞研究所
研究主題	仲間とつながり、目標に向けて支え合いながら取り組める生徒集団の育成 (京都府教育委員会指定「未来の担い手育成プログラム研究校」)		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、社会を生き抜いていくためには認知能力と非認知能力の双方を育む必要がある。 ・教職員が非認知能力について学び、その重要性について共通理解を図る。 ・非認知能力を意識した指導や支援を通して、研究主題にある生徒集団の育成に迫る。 		
1年次	1 チーム作り		
取組概要	<p>(1) 目的達成に効果的なチームを作る「チームビルディングゲーム」</p> <p>(2) チームでの話し合いにより結論を導き出す「NASAゲーム」</p> <p>2 京都大学iPS細胞研究所との連携</p> <p>(1) 京都大学の講師によるiPS細胞に関する講演会</p> <p>(2) 夏季休業、iPS細胞の倫理的課題に関するレポート</p> <p>(3) 2学期に調査結果の交流、発表準備、発表本番</p> <p>(4) 振り返りとして、2年次に向けた改善点について考察</p>		
成果	京都府学力診断テストでは、「課題を立て情報を集め、話し合いながら整理・発表する」等が高い割合となっている。学校質問紙調査(5・1月比較)では、「適切な自己主張」「諦めずやり通す力」等に有意な差が見られる。		
2年次	10月 ①iPS細胞研究所出前学習(リモート) ②課題提起、iPS細胞に係る課題設定		
取組概要	<p>③レポート作成(テーマ「人を対象にした実験」等)、iPS細胞の倫理的課題と考察</p> <p>11月 ④チーム作り、調査結果の交流 ⑤調査結果の交流、発表物作成、発表準備</p> <p>⑥発表の仕方(NHKティーチャーズライブラリー活用)、発表物作成、発表準備</p> <p>12月 ⑦発表の仕方(NHKティーチャーズライブラリー活用)、発表物作成、発表準備</p> <p>⑧発表リハーサル(クラス内及び他クラスで発表し、質問内容についてさらに調査)</p> <p>⑨3年生対象発表Ⅰ(グループを2つに分け、生徒または担任対象に発表)</p> <p>⑩3年生対象発表Ⅱ(Ⅰの発表対象の入替) ⑪振り返り、改善点の考察</p>		
成果	発表機会を通じて取組に対する意欲が増し、質問に臨機応変に回答する力が向上した。		
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教師はiPS細胞に関して予備知識を入れず、研究に対して指示をせず、質問に対応しない。 ・大学提示の課題を基に自由に研究テーマを設定し、似たテーマ毎にグループを形成する。 		
着眼点	<p>① 育てたい生徒像からキャリア教育の方向性が見えてくる。</p> <p>② 研究成果を高めるために、チーム作りに関する活動を取り入れる。</p>		

□ キーワード**進路** □ 志を育むキャリア教育

[令和3年度]

取組ポイント

将来展望を描き、その実現に向けて励む生徒の育成を目指し、学年間の系統性を重視したキャリア教育が展開されている。1年次、夢を抱き、担任との面談を繰り返すなか具体化していき、全生徒が、発表を通して実現に向けた意欲を強くしていく。2年次、多様な業種の講師を招き、1年次に抱いた志と関連する職業講話を聞き、やりがい・魅力について理解を深めていく。進路と向き合うなか学習意欲や生き方が変化し、学校生活を前向きな姿勢で過ごしている。

学校名	亀岡市立東輝中学校 〒621-0834 亀岡市篠町広田3丁目28-1 ☎ 0771-24-3418			
キャリア教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動を通じて、生徒一人一人の伸長及び進路実現を図る。 ・将来に対する夢や希望の下、目的意識を持って日々の生活に取り組む姿勢を養う。 ・「生きる力」を身に付け、主体的に自己の進路選択・決定ができる生徒を育成する。 			
背景	平成30年度まで62事業所で職場体験学習を実施していたが課題→システムの見直し <ul style="list-style-type: none"> ・希望外の事業所での体験 ・事業所から日数減等消極的意見 ・教員に多大な負担 			
1年次	テーマ	志の発表	時間	総合的な学習の時間、学級活動
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢、憧れ」～「志」をもつ生徒の育成 ・仲間の「志」に触れ、他者理解の促進 ・自らの生き方について、主体的な探求を促していくために「志」の理解 			
取組概要	9月 ①校長から当該学年の教員対象に取組説明 10月 ②校長が学年集会において、「志」について説明 ③取組内容の説明、アンケート記入・回収、作文作成 ④二者面談（学年平均4.1回）→夢の具体化・深化 11月 ⑤作文作成→国語科として「書く」ことの重視 ⑥作文校正→担任による添削（学年平均4回）、清書 1月 ⑦内容訂正、誤字脱字の有無等について最終点検 2月 ⑧「志」学級発表会→数人ずつ3日間で実施、代表者選出（2～3名） ⑨学年発表リハーサル ⑩「志」学年発表会 ⑪まとめ→作文集、DVD等			
2年次	テーマ	プロに学ぶ	時間	総合的な学習の時間
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「志」作文の次のステップに位置づけ、望ましい勤労観や職業観の育成や自己の将来の「志」の実現を目指す意欲の高揚を図る。 ・職業生活や社会生活に必要な知識や技能の習得に対する理解や関心を深める。 			
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> 様々な業種の講師から仕事に関わる講話を聴いたり、実演を観る（4時間で4種）。 講話のポイントを講師に明示し、学習効果を高める。 参加業種→調理師、美容師、獣医、警察官、看護師、新聞記者、弁護士、保育士等11種 業種によっては商品の製造場面や作業場면을観たり、実際に体験する。 事後学習のまとめとして感想・お礼状を書き、送付する。 			
成果	学校独自の意識調査では、前向きに生きる生徒が増加し、令和3年度全国学力・学習状況調査では、全科目とも全国平均を超えている。負担減により活気ある職場へと変化した。			
着眼点	① 生徒との、丁寧な、徹底したやり取りが1人1人の夢を具体化する。 ② 「外部への職場見学から、校内での職業学習へ」、発想の転換で学びを充実させる。			

取組ポイント

南丹市の指定事業を受け、地域道徳に取り組んでいる。よりよい生き方に関わる「道徳」の学びは、キャリア教育を通して育む基礎的・汎用的能力に含まれる。年度毎に到達目標が明確に設定され、学びが体系的に積み上げられている。各企画とも生徒が主体的に取り組む、推進・定着の力になっている。1つのテーマを深め、広げることで積極性が増し、高い達成感を得ている。幼小中・家庭・地域連携を通して、人とつながり、人に包まれ、自己効力感を育んでいる。

学校名	南丹市立八木中学校 〒629-0141 南丹市八木町八木野條1 ☎ 0771-42-2009	
テーマ	社会で生きる基礎を培うキャリア教育 ～あいさつの活動を通して～	
指定事業	令和3・4年度文部科学省指定「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」 →コミュニティスクールを活用し、大人と子どもが一体となり、「地域道徳」に取り組み、その相乗効果により地域ぐるみで道徳性、道徳的实践意欲と態度を育む。	
連携	2幼稚園・2小学校・1中学校	
育む生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりに、あまりストレスを感じない人 ・人との関係を発展させる術を体得できている人 ・互いを認め、人とのつながりを大切にできる人 ・最初にあいさつが言える人 ・考えや意見がしっかり言える人 	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・将来出会う人にあいさつができ、人間関係を構築できる力を学校・家庭・地域で育む。 ・人間関係の希薄化、人間の存在・尊厳の危機が懸念されるなか、Society5.0を生き抜く生徒を育む。 	
取組概要	<p>「笑顔であいさつ 自らあいさつ」を目標に、キャッチコピー「あいさつで 今日も八木町 絶好調」を掲げ、主体的に地域・社会に働きかけつながら絆を構築する。</p> <p>令和2年度 【対象】校内 【目標】クラスや仲間であいさつが気持ちよくできる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 昼食時放送→生徒会があいさつに関わるエピソードを放送(大切さ、取組のアピール等) 2 シール花火→あいさつ運動参加生徒にシールの配布、クラス掲出の画用紙に花火に見立てて貼る。参加者数が花火の大きさ、各画用紙を貼り合わせ、花火の完成 3 小学校訪問→生徒会が小学校にて、全児童対象にあいさつの大切さについての語り <p>令和3年度 【対象】家庭・地域・自分自身 【目標】あいさつから一歩踏み込み、絆を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 PTA協力の下、家庭で実践 [3つのあいさつ運動]の実践 2 のぼりの制作、町内設置 3 あいさつ作文で自己の振り返り <p>令和4年度 【対象】町内 【目標】地域における関係のきっかけを作る。 生徒会がステッカー考案、取組の共通理解に向け生徒が全戸配布</p>	
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントではなく、続く取組とし、学校文化として定着させる。 ・トップダウンではなく、生徒(会)が中心となって発信する。 	
成果	令和3年度全国学力・学習状況調査において、「相手の考えを最後まで聞き、受け止めて自分の考えをしっかりと伝えている」「話し合いを生かして、今、努力すべきことを決めて取り組んでいる」「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、取り組んでいる」の各項目において高い割合となっている。	
着眼点	<ol style="list-style-type: none"> ① よりよい生き方に関わる「道徳」の学びは、キャリア教育の学び ② 取組に向けた配慮事項の確認と、その共有が育つ生徒像を決める。 	

□ キーワード**知識活用力** □ 課題解決から活用力を育むキャリア教育 [令和3年度]

取組ポイント

3年間を見越した体系的な指導計画の下、近隣高校や大学、企業と連携し、食をテーマに正解のない課題に取り組み、既習の知識を活用する力の向上に努めている。発表を重視し、根拠を示した説得力あるプレゼンテーションを目指し、教科等において取り組まれている。資料の理解や探究の深化に求められる読解力に焦点を当て、リーディングスキルテストにより評価している。和食文化と地域の活性化を関係づけて地域の未来を考え、最適解を導く活用力を磨いている。

学校名	京丹波町立瑞穂中学校 〒622-0322 京丹波町大朴段ノ垣内17番地 ☎ 0771-86-1150			
1年次	テーマ	出汁について学ぶ	時間	1・2年生とも総合的な学習の時間
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・須知高校・京都大学と連携し、大学の知的資源を須知高校を中心とした農業教育等に生かしながら、中学校に普及させることで地域の活性化を図る。 ・須知高校から提示された食に関するテーマについて調べ、2・3年次で取り組む、京都府教育委員会指定「未来の担い手育成プログラム研究校」につなげる。 			
取組概要	①班毎に調べる（出汁の特徴、役割、地域差） ②京都大学から調べたことに関する講義 ③須知高校と辰巳屋（料理屋）料理長による講演 ④出汁作り、味比べ ⑤須知高校の発表を視聴 ⑥学びの発表（パワーポイント）			
2年次	テーマ	株式会社「美濃吉」の提案「新しい和食の在り方を創造して、和食文化を広める」		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて思考力・判断力・表現力を育成しながら、学びに向かう姿勢を育む。 ・社会で直面するような「答えのない問い」に挑む基盤を育む。 			
研究主題	未来の創造を目指した「主体的・対話的で深い学び」の実現 ～課題解決学習により地域の未来を考え、行動する生徒の育成～			
取組概要	7月 ①取組の説明、「課題やニーズ」等課題解決の手法の学び ②班(4人)毎に現状を調べ、仮説を立て、テーマの設定 8月 ③リーディングスキルテストの実施 9月 ④班毎にテーマに沿った調べ学習Ⅰ 10月 ⑤班毎にテーマに沿った調べ学習Ⅱ ⑥発表、検証→現状を把握できているか、説得力のある根拠を示しているかの検証 11月 ⑦本物に触れる校外学習→美濃吉「竹茂楼」を訪問、解決策を発表し、社員から助言 ⑧中間発表会（ポスターセッション）→中間発表、視聴者からの質問等に回答・対応 12月 ⑨課題再検証→「課題」「ニーズ」を理解できているか、解決策は実現可能かの検証 ⑩発表会に向けてのまとめⅠ 1月 ⑪発表会に向けてのまとめⅡ ⑫発表会リハーサル 2月 ⑬発表会			
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を示しながらわかりやすく伝えることによりコミュニケーション能力を向上させる。 ・資料を読み込むための読解力の評価として リーディングスキルテストを実施する。 ・1年次の、南丹教育局「環境・食育校種間連携パートナーズスクール事業」における学びを生かし、「和食文化を広める＝京丹波町の活性化＝地域の未来を考える」を推進する。 			
着眼点	① 全学年で系統的に取り組み、学びを積み上げ、探究を深める。 ② 体系的・教科横断的な指導を通して、身に付けさせたい力の育成を図る。 ③ 京都を代表する企業と直に接し、生徒の本気度が増すなかで非認知能力を活用・育成する。			



取組ポイント

キャリア教育の視点を生かした授業を展開し、育んだ力を総合的な学習の時間で活用し、グループ単位で課題解決学習に取り組んでいる。地元企業と連携し、提示された、解が1つとは限らない課題に対して、社員への取材や新聞社との連携による市民対象のアンケート等、10年後の心地よい生活を具体化するために、生徒が主体的に進め、アイデアを深化させている。
常識に縛られない発想を快適な生活につなげようと、生徒主導で意欲的に取り組んでいる。

学校名	綾部市立東綾中学校 〒629-1263 綾部市鷹栖町小丸山25 ☎ 0773-46-0033		
目指す生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさに気づき、主体的に<u>行動する力</u> (こ) ・地域や企業と協働し、他者に<u>働きかける力</u> (は) ・学んだことを生かし、課題を<u>解決する</u> (か) ・見通しを持ち、将来を<u>設計する力</u> (せ) 	} ミニ博士	
テーマ	学ぶ意義や目標を持ち、主体的に行動する生徒の育成		
授業概要	<p>1 授業改善 ～キャリア教育の視点を取り入れた授業～</p> <p>(1) 主体的に学ぶ生徒の育成 (キャリアプランニング能力) 年間計画により1時間の授業に見通しを形成。授業、単元後に振り返り</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学び ～課題解決型学習の実践 (課題対応能力)～ 課題解決型学習に向けて、「工夫して挑戦する力」「活用する力」の育成</p> <p>(3) 学習指導要領に則った評価の研究 評価研究、思考力・判断力・表現力を高める授業、キャリア教育を軸とした授業</p> <p>2 主体的に学ぶ生徒の育成 ～「8コマ学習」の定着・質の向上～ 自主学習のきっかけづくり、終礼に家庭学習計画、頑張ると「むくわれる」ことを実感</p> <p>3 カリキュラム・マネジメント ～教科と行事をつなぐ～ 教科の学びを取組 (総学・キャリア学習) や日常に活かす「実際に使える感」の育成</p>		
取組概要	<p>1 単元：10年後の心地よいインナーウェアを創造しよう</p> <p>9月 課題提示 (情報収集・解決方法について見通しの形成)</p> <p>10月 グンゼ訪問 (取材、課題に対する意見)、アンケート①から10年後の展望、調べ学習、社員に経過の報告、問題点の指摘、解決に向けて話し合い、文化祭発表の準備</p> <p>11月 文化祭発表、1・3年生からの意見を参考に案の練り直し</p> <p>12月 アンケート②を基に案の練り直し 1月 本発表に向けて準備 2月 発表、振り返り</p> <p>2 評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能 情報収集を行い、論理的思考で分析し、意見を練り合い、よりよいものを作り上げる。 ・思考力・判断力・表現力 他者の意見を受け入れ、説得力ある考えに練り上げる方法を考え、計画的に探究する。 ・学びに向かう力・人間性等 仲間と考えを深め、課題を指摘し、克服していく過程を通してよりよい結論に近づく。 	時間	総合的な学習の時間
		対象	2年生
着眼点	①キャッチコピーは取組の浸透・定着の推進力 ②年間を通して1つのテーマを追究・深化		

□ キーワード**地域** □ **地域との信頼関係が織りなすキャリア教育** [令和2年度]

取組ポイント

年間を通して多様な取組が組織的に展開されている。第3学年は、将来の夢についてまとめ、全生徒が発表を行い、その実現に向けて歩む力につなげている。有志生徒が地域から依頼されたボランティア活動に地域主導で取り組み、職業観を学ぶとともに、自己有用感を育てている。第2学年は、地域の提案による植樹に協働で取り組み、やり遂げるなか社会性を身に付けている。地域との厚い信頼関係と系統的な計画が、夢を描き、実現に向けて踏み出す力となっている。

学校名	福知山市立桃映中学校 〒620-0893 福知山市堀1691 ☎ 0773-22-3220				
取組Ⅰ	私の生きる道	対 象	第3学年	時 間	総合的な学習の時間
内 容	夢や情熱を持って取り組んでいること、特別に大切にしていること、願い、生き方の展望等を、学級全員の前で発表する。				
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き方を考え、将来を切り開いていこうとする資質や能力、態度を養う。 【キャリア】 ・ 仲間の生き方に関する思いを知り、互いの個性を尊重する気持ちを深める。 【人間関係】 ・ 自分の夢を文章にまとめ、思いを語ることで、自己表現力を養う。 【課題対応】 				
取 組 概 要	9月 ①オリエンテーション 10月 ②原稿作成 ③原稿作成 ④全員発表 ⑤クラス代表の発表 ⑥原稿修正 ⑦リハーサル ⑧本番				
取組Ⅱ	夢・絆ボランティア	対 象	全学年	時 間	週休日及び祝日
内 容	地域からボランティア活動の依頼を受け、ボランティアバンク登録生徒に広報し、参加を募り、希望者が地域において、地域主導の下、ボランティア活動に取り組む。				
背景	平成27年度、文部科学省「人権教育総合推進地域事業」研究指定校を受け、学校と地域、生徒と地域をつなぎ、桃映ブロックの中で生徒を育てることをねらいとして取組を開始する。				
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奉仕活動による体験を通して、将来の生き方や職業観を育む。 【課題対応、キャリア】 ・ 自己有用感や郷土愛を育むとともに、地域の中で支えられている実感を促す。 【人間関係】 ・ 視野を広げ、地域の大人や小学生に接するなかでなりたい自分を明確にする。 【自己理解】 				
取 組 概 要	ボランティア登録用紙に必要事項を記入・提出し、ミーティング後に登録を完了する。 学校は引率せず、依頼者側が保険加入手続き等すべてに対応する。 7月 親子ふれあいのタベ 9月 庵我運動会、イルミライト 10月 堀文化祭、庵我ふれあい祭り、校内葉牡丹植え付け 11月 大正ふれあい公民館祭り 12月 餅つき大会、葉牡丹植え替え 1月 餅つき大会 2月 にれの木園福祉ボランティア				
					
取組Ⅲ	チャレンジ学習（植林）	対 象	第2学年	時 間	総合的な学習の時間
内 容	大堀区の「豊かな森づくり事業」でコナラ200本の植樹計画の内、100本を生徒が担当				
背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍により職場体験学習が中止となり、地域から代替案として植樹の提案を受ける。 ・ 地域住民から植樹の手ほどきを受け、協働して作業に取り組む。 【人間関係】 ・ 木の根・固い地盤の中、役割を果たし植樹を終える。 【自己理解、課題対応、キャリア】 				
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働くことの意義を学び、真剣な取組姿勢を養う。 ・ 地域活動により社会性を身に付ける。 				
着眼点	① 地域との良好な関係が学習内容を広げる。 ② 地域との信頼関係が生徒を支え伸ばす。				

□ キーワード**歴史** □ **歴史継承を担うキャリア教育**

[令和2年度]

取組ポイント

一部の生徒の自主的な活動を学校の取組に進展させ、キャリア教育のテーマ設定の視点として参考になる実践である。生徒は、なぜ取り組むのか、を理解し、地元住民の想いを引き継ぐ継承者として語り部募集を呼びかけたり、歌を復活させたりするなど、主体的に行動している。修学旅行を発表の場として活用し、校内における活動では期待できないほどの成長を遂げている。地元の歴史を心に刻み、伝えることに使命を感じながら、基礎的・汎用的能力を育てている。

学校名	舞鶴市立若浦中学校 〒625-0007 舞鶴市大波下18 ☎ 0773-64-0800				
テーマ	引き揚げの歴史を受け継いで	対 象	全学年	時 間	総合的な学習の時間
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土愛と誇り→人を思いやる温かい心を育む。 ・自立心の育成→面識のない人と交わる社会において輝く逞しさを育む。 				
取 組 概 要	平成28年度				
	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生3名が自主的に「語り部養成講座」を受講し、語り部としての認証 				
	平成29年度				
	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会を開催し、歴史的背景や取り組む意義について理解 旧大浦中学校は授業中に引揚者の出迎え、祖父母が引揚者の生徒が在籍等取り組む意義 語り部生徒が後輩に引揚記念館の展示物を説明し、語り部募集の呼びかけ ・平和記念式典に代表生徒が出席 ・テレビ局による語り部生徒への取材、視聴した引揚者と引揚記念館で偶然に会い文通 				
	平成30年度				
	<ul style="list-style-type: none"> ・平和記念式典に全生徒が出席し合唱の披露、代表生徒の「平和のメッセージ」読み上げ ・取組意義を実感し、新たな語り部募集に向けて、語り部生徒が1年生学年集会で呼びかけ ・班毎に修学旅行向けのパンフレット作成、観光客に配布・説明 ・校区の小学校6年生と引揚記念公園の清掃活動 				
令和元年度					
<ul style="list-style-type: none"> ・復活させた「引揚者を迎える歌」を平和記念式典において披露 生徒会が旧大浦中学校卒業生から指導、生徒に歌復活の提案 ・修学旅行に向けて一人で独自のパンフレット作成、観光客に一人で配布・説明 ・岡山県から手紙「引揚者の兄がテレビ放映を視聴し、引き揚げについて語り始めた。」 「道徳」の教材として、「なぜ、語り始めたのか」について考える。 ・他府県からの修学旅行の受け入れ（引揚記念館での説明・交流、若浦中学校での交流） 					
令和2年度					
<ul style="list-style-type: none"> ・戦後75年、ユネスコ世界記憶遺産登録5周年記念行事に全生徒が参加 「引揚者を迎える歌」の披露、語り部生徒による取組に関するプレゼンテーション ・2年生から、記念行事に向けて学年集会の依頼、「心を込めて歌うために呼びかけたい。」 ・2年生が1年生学年集会において語り部募集の呼びかけを行い、10名が応募 					
着眼点	<ul style="list-style-type: none"> ① 一部の生徒の自主的な活動を学校全体の取組へ進展させる。 ② 生徒の、「なぜ、取り組むのか」の理解が主体性につながる。 				



□ キーワード**地域** □ ふるさと活性化から生き方を見つめるキャリア教育 [令和2年度]

取組ポイント

ふるさどが抱える課題の解決に向けて、活性化につながる魅力について考え、行政の支援を受けながら具体化している。地域の現状についてアンケート調査を実施するなど理解を深め、中学生らしい発想で、「住みたい」「訪れたい」まちづくりについてまとめ、地元の振興に取り組む地域住民とのパネルディスカッションを通して、アイデアをさらに深めている。

生まれ育ったふるさとの未来が潤う新たな方策を探究し、将来の生き方について考えている。

学校名	宮津市立栗田中学校 〒626-0074 宮津市字上司1525 ☎ 0772-25-0023		
テーマ	わたしが思う住みたい・訪れたい宮津 ～みやづのためにできること～		
背景	宮津市は人口減少、高齢化等の課題を抱えているが、生徒が現状を理解し、一市民として宮津の魅力を引き出すための方策を考えることで、ふるさと宮津の未来につなげる。		
対象	第3学年	時間	総合的な学習の時間、国語科
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさとみやづ学」の充実を図り、地域の良さや魅力を再発見する学習を通して地域に対する理解や愛する心を育み、地域づくりへの意欲を醸成する。 ・課題を見つけ、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質・能力を育む。 ・各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を関連付け横断的な学習を行い、探究活動に主体的、創造的に取り組む態度及び生き方を考える能力を育む。 		
配慮事項	各生徒とも意見が出しやすいようにKJ法を取り入れる。		
取組概要	<p>11月 ①宮津市の現状をパワーポイントを使って説明</p> <p>② { ・宮津の魅力について、昨年度の意見の振り返り ・「宮津がこんな町になってほしい」をテーマにアイデアの交流 (KJ法) →宮津の魅力発信、水産業の後継者育成、宮津ならではの料理開発、Iターン推進</p> <p>③天橋立散策 (修学旅行で訪れた宮島との違いを意識)、天橋立観光協会から説明</p> <p>12月 ④意見を3グループに整理 (A:地域経済力の向上、B:若者の定住、C:魅力の発信)</p> <p>⑤各グループに市役所職員が入り、生徒と話し合い</p> <p>⑥話し合いの結果を参考に意見を深め、文章化</p> <p>⑦パネルディスカッションの発表練習 (国語科との連携)</p> <p>⑧ふるさとみやづ学発表会</p> <p>I プレゼンテーション { ・「宮津市の魅力、宮津と宮島」 ・「ふるさとみやづ学」(学習内容、アンケート、宮津の現状)</p> <p>II グループの意見発表</p> <p>A 地域経済力の向上→宮津を訪れたいくなる取組、魚介類のブランド化、地産地消</p> <p>B 若者の定住→田舎暮らしの情報発信、体験ツアー、受け入れ体制、空き家改装</p> <p>C 魅力の発信→「知恵の餅」のデザインの多様化、インスタ映えスポットの増設</p> <p>III 参加者 (宮津オリーブ生産者の会、公民館長) との意見交換</p>		
着眼点	<p>① 行政との連携は取組の多様化、深化、具体化を推進する力になる。</p> <p>② ふるさと活性化をテーマにすると、生徒の主体性・課題意識が増す。</p> <p>③ カリキュラム・マネジメントにより時間数を確保し、取組を充実させる。</p>		

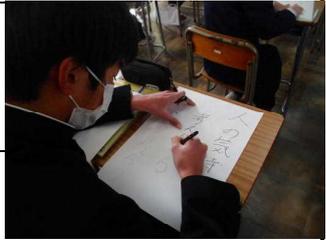


□ キーワード **人権** □ 人権に焦点を当てたキャリア教育

[令和4年度]

取組ポイント

多様な他者の考えや立場を理解する力は、キャリア教育を通して育む基礎的・汎用的能力の人間関係形成・社会形成能力に含まれ、人権教育とキャリア教育が一部重なりがあると捉えることができる。自他を大切に作る心の育成に向けて、各学年とも年間を通して体系的・組織的に多彩な取組が展開されている。生徒主体の特色ある取組が人権意識の広がりとして定着に寄与している。人権に焦点を当てたキャリア教育を通して豊かな心を育み、夢を描く力につながっている。

学校名	京丹後市立大宮中学校 〒629-2501 京丹後市大宮町口大野216番地 ☎ 0772-64-2201	
重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成を目指す授業づくりの推進 ・自他を大切に作る心を育むための人権意識の高揚 ・体験活動の充実、教職員の連携・協働 	
取組概要	<p>1 人権意識の育成</p> <p>(1) 自他を大切に作る心を育てる取組</p> <p>ア 生徒会企画・花いっぱい運動→新入生歓迎に向けた花の植え付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイタッチモーニング→連携小学校でハイタッチで児童の登校を出迎え ・いいところみつけ→体育祭取組の人の頑張りを、葉や花に見立てた紙に書き[いいところの木]に貼り、頑張りが木の大きさ <p>イ その他・ニコニコの日(毎月25日)=人権の日→全員が人権バッジを着用、人権を意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権のつどい→人権学習まとめの作文を学年代表が発表 ・人権標語→人権標語作成、クラス毎に人権グランプリ開催、優秀作品の掲示 <p>(2) 人権学習</p> <p>ア 6月 いじめの構造、差別・偏見を生むもの等についての学習、人権宣言を策定</p> <p>イ 11月 心身の機能に障害のある人(令和元年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生 障害に対する基本的な学習 ・2年生 障害者スポーツに関する学習→元車いすバスケットボール選手の講話 ・3年生 視覚障害に関する学習→指導者研修会に参加、障害のある方と意見交流 <p>2 夢・未来式</p> <p>(1) 目的</p> <p>ア 現在の自分と向き合い、これからの生き方について考える。</p> <p>イ 夢をもち未来を切り拓くための行動について考え、目標を設定する。</p> <p>ウ 討論活動を通して思い・考えを伝え、他者理解からより深い自己理解につなげる。</p> <p>エ 自分の成長が周囲の人々の支えによるものであるという感謝の気持ちをもつ。</p> <p>(2) 学習内容</p> <p>ア 6月 ①学習の振り返り、流れの確認 ②夢に向けて努力した社会人による講話</p> <p>③未来設計図の作成、目標に向けた行動の確認 ④決意作文「これからの自分」</p> <p>イ 7月 ⑤夢・未来式→クラス代表が3年生全員対象に発表、各生徒が各学級にて発表</p>	
着眼点	<p>① 目標達成に向け、「何を」「どこまで」深化・発展させようとするか。</p> <p>② 各取組と基礎的・汎用的能力4領域との関連を明確にする。</p>	

取組ポイント

小中高・大学・地域・関係団体・行政等と連携し、地域の環境問題に取り組み、ヘドロや悪臭の原因となるアオサ・カキ殻を回収するとともに、堆肥化にチャレンジし、詳細なデータ分析から有効活用への可能性を見出している。多様な機会を通して環境について理解を深め、環境改善に対する意識啓発活動にも取り組み、地域のより快適な暮らしの実現に向けた力になっている。地域が抱える問題に対する取組を通して自らの可能性を認識し、自己効力感を高めている。

学校名	与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校 〒629-2262 与謝野町字岩滝2330 ☎ 0772-46-3525														
テーマ	阿蘇海周辺の自然・環境学習	対 象	第1学年	時 間	総合的な学習の時間										
目 的	・阿蘇海を取り巻く自然と環境の実現について知る。 ・行政や民間団体の環境改善の取組を学び、実施可能な環境改善の方法について考える。														
取 組 概 要	5月 ①海と星の見える丘公園における学び→「京都自然塾」を体験、環境について考えることの大切さ「地球は子孫から借りているもの」の学び、振り返りとして海星壁新聞の作成、コンクールの実施 6月 ②環境講話→「丹後の自然を守る会」から、鮭が野田川を遡上し産卵するなど阿蘇海の豊かな自然や「海のことを山に返す」という資源循環等に関する学び ③畑づくり→「海のことを山に返す」取組として、阿蘇海のヘドロや悪臭の原因となるアオサ・カキ殻の回収、堆肥としての活用、野菜栽培の計画、畑づくり ④アオサ・カキ殻回収と堆肥として活用→アオサ・カキ殻の回収・粉碎、畑においてアオサ・カキ殻堆肥の有無によるミニトマト（年により大根）成長比較実験 ⑤高校からの学び→阿蘇海浄化に取り組む近隣高校から環境に関する取組の学び 7月 ⑥ボランティア活動への参加→ボランティア活動として地域・大学生（国際ボランティア学生協会）・漁業協同組合・高校・町と連携、アオサ・カキ殻の回収 7～8月 ⑦水やりと成長の観察→夏季休業中は部活動参加時に水やり、堆肥効果の確認（ミニトマトの大きさ・量・甘さ・収穫期間） <table border="1" data-bbox="507 1384 1396 1489" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">重 量 (g)</th> <th>肥料あり</th> <th>なし</th> <th rowspan="2">長 さ (cm)</th> <th>肥料あり</th> <th>なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>170.8</td> <td>100.7</td> <td>10.0</td> <td>8.4</td> </tr> </tbody> </table> 9月 ⑧収穫と発表に向けた準備→トマトを収穫し試食、学習の振り返り、未来の阿蘇海について考えてまとめ ⑨文化祭における発表→クラス代表が環境学習の発表、海星壁新聞の優秀作品、ミニトマトの絵・俳句の展示 2月 ⑩大学生と環境学習交流会→実践発表、大学生の活動紹介、環境保全についてグループディスカッション、意見を全体で共有 ⑪阿蘇海フェア→阿蘇海流域の環境改善に向けた意識啓発を目指して、小中高・大学教授・地域住民が集い、取組を交流する企画における代表生徒による発表					重 量 (g)	肥料あり	なし	長 さ (cm)	肥料あり	なし	170.8	100.7	10.0	8.4
重 量 (g)	肥料あり	なし	長 さ (cm)	肥料あり	なし										
	170.8	100.7		10.0	8.4										
着眼点	① 地域の環境問題は、改善に対する意識を高め、生徒を本気にさせる。 ② 「課題・仮説・実験・検証」、実際に自ら試し、分析するなかに真の学びがある。 ③ 小中高・大学・地域・関連団体・行政等、連携の広さが研究の深さにつながる。														

